

平成24年度 地区別・4ブロック研修会まとめ(平成25年3月31日調)

地区	開催日	参加人員	テーマ内容等	成果及び今後の課題等
石 狩	平成24年8月26日(日) 北広島市芸術文化ホール 2階 活動室1・2	大人39人 (子ども2人)	「つなごう人の輪・広げよう地域の輪」 意見交換会「あなたの母子会は魅力ありますか」 施設見学 北広島市国指定史跡等見学	意見交換会ではひとりずつ、母子会加入時のことを話してもらった。現在まで頑張ってきたが時代とともに仕事も多様化し、集まることの難しさ、法整備がされてきたとはいえ、意外と必要な必要な人に必要なことが周知されていない。 ひとり親になって最初に相談するのは行政で母子会との協力が必要ではないか。 PRが足りない、地道に口コミで会員を増やし、仲間作りをしていかなければならないと皆の意見が一致した。 就業支援法ができて中々正規雇用に結びつかない。
後 志	平成24年9月2日(日) 倶知安町 ホテルようてい	大人37人	講 演 「毎日を健康で過ごすために」 講師 社会福祉法人黒松内つくし園 倶知安地区統括副施設長 中田 博彰氏 交流会 他町村母子寡婦会との意見交換	講 演 福祉施設で長年勤務している中田氏、黒松内つくし園の紹介と福祉制度について説明があった。 自分が寝たきりになったときの選択肢として子ども・老人ホーム・病院・地域のどれかと聞くと老人ホームが多く、財産は子どもにが圧倒的に多かった。毎日を健康で過ごすのに大事なことは「思いやり」で相手を見て自己満足にならないことが大事。もう一つは「笑顔」ほっとする、落ち着く、幸せな気持ちになる等笑顔の大切さを再確認した講演だった。 意見交換 会員同士会う機会が少ないので各単位の行事や課題について話し合った。 会員は70・80歳代が多く若年を増やしたいがプライバシーの問題があり、行政は情報を教えてくれないので若年の会員を増やすのは難しい、他単体会はどうしているか？町内会行事で会い声掛けをした、若い会員に宣伝してもらっている。奨学金制度があるだけでなく行事や催しで出やすい場所作りが必要だという意見があった。 それぞれの母子会で会員を増やすために工夫を凝らし行動しなければならないことをみんなで感じ、充実した意見交換となった。
空 知	平成24年7月8日(日) 妹背牛町 妹背牛温泉ペペル	大人48人	講 演 「地域の中での母子会の在り方について」 講師 妹背牛町社会福祉協議会 会長 柳 良信氏 施設見学 秩父別町ローズガーデン	講 演 秩父別町と妹背牛町母子会の2会が協力して実施したことに感心しました、と社協会長の言葉で研修会が始まった。母子会の始まりは戦争未亡人(国防婦人会)で、同じ境遇の人が農業等を助け合って生計を支えた。 最近、個人情報保護法の関係で入会しても生活に関しても声をかけにくくなっている。昔は心配な親子に声をかけるなど地域の役割があった。国の対策に関しても、子育て支援法案が入っていないと最後に子どもにとって、母親の愛情が一番となる、と講演された。 細長い空知地方での研修で2つの町村での開催は準備が大変だったと思われた。 施設見学は秩父別町ローズガーデンで管理者の相場義三郎氏からローズガーデン開設にあたり郵便局職員だった相場さんが趣味で始めていたバラに関して専門家に近い知識もあり、準備から設計まで担当し現在に至っている。 歴史から、名前の由来、育て方、公園の管理の大変なこと等丁寧に教えていただき、質問する人も多く、目と気持ちで楽しむ研修となった。バラは本来外国人は体臭が強かったためバラの香水が作られ、色々と研究を重ね現在の香水になっている。 秩父別町に人が来てくれ、花を見てソフトクリームを食べてくれる、これが町にとってうれしいことだとすと言った。 妹背牛町に移動する途中、道央圏初の専用施設である妹背牛カーリングホールを見学する。夏の間は町民に開放されているそうです。
道 央 ブロック ・石狩 ・後志 ・空知	平成24年10月28日(日) 岩見沢市 イベントホール赤レンガ	大人42人	「自立をめざし、家庭の在り方を考えよう」 講 演 「気づき・つなぎ・見守る」 講師 北海道家庭生活総合カウンセリングセンター 副理事長 善養寺 圭子氏 事例発表 「母子家庭等就業・自立支援センター事業について」	講 演 今、大変な世の中だからこそ、自分一人で生きているのではないという事に気づき、きちんと向き合った対応をし、人として成熟した人間として子どもに見せていく、存在していることがいいことだと感じる子どもであるべきで、子どもの心を見守ることが大切である。心豊かな人生を生きるためにはゆとりある心が大切。 人生を肯定しながら生きることがゆとりにつながり、よく考えよく生きることが心の復元力となる。 専門的な内容の中にも、わかりやすく、人としての在り方、子供に対する向き合い方、人生についての考え方を改めて見つめなおした。 事例発表 「母子家庭等就業・自立支援センター事業」について 畑副センター長より道央圏域センターが設置された経緯、センター事業の役割、事業内容などを資料を基に説明。石狩、後志、空知管内で実施された事業内容について発表されたが参加者が年齢層が高く、若年が少ないのが課題となっている。また開催のPRをどのようにしていくか、若年母子家庭に支援センターの存在を理解してもらうにはどうすべきかが問題点となりました。

地区	開催日	参加人員	テーマ内容等	成果及び今後の課題等
上川	平成24年9月30日(日) 名寄市総合福祉センター		道北ブロックと同じ	
道北 ブロック ・上川 ・留萌	平成24年9月30日(日) 名寄市総合福祉センター	77人	講演 「脳梗塞について」 講師 名寄市立総合病院診療部長 徳光 直樹氏 施設見学 なよろ天文台「きたすばる」 問題点	脳梗塞の症例を症状毎にスライドを通し説明があり、手元に資料がない分講演の内容に集中でき、どのような場合すぐ対応が必要であるかをわかりやすく解説して、地元で頼りになる医療の現状をとらえることができた。 施設見学の天文台は、あいにくの雨で壮大な天空を望む事は出来なかったが、普段個人では見ることのないプラネタリウム等見られたことは良かった。 昼食をはさみ、道母連理事長、各单位会長、母子自立支援員さんと意見交換会を持った。 問題点は、事務局を担当してくれる人、会長の後継者不足等に対し、行政・各関係機関に協力をお願いできるパイプづくりが大切。 道母連の奨学金はありがたい、休会を決める前に地区母連に相談することも必要で存続できる方向性を持って行ってほしい。 今回の大会は参加者の減少が、開催時期か会員の高齢化か、今何が必要か情報を把握する必要があると思われる。
渡島	平成24年11月18日(日) 函館市 湯の川観光ホテル	53人	テーマ 「心身ともに健康で地域に貢献」 「身近な人が「うつ」になったら」 講師 渡島総合振興局保健行政室子ども・健康推進保健 保健福祉係 主任保健師・櫻岡さおり氏 保健師 六田一典支 講演 「運動不足解消で、いつまでも健康に」 講師 テーオーアスレチッククラブ 健康運動指導士 鍵谷彰良氏 成果	・身近な言葉でありながら実はよく知らない「うつ」について、具体的に理解を深めるとともに、「うつ」状態の人にどのように接したら良いかポイントを学ぶことができた。また、相談機関についても情報を得ることができた。 ・どちらも家族や会員など身近な人に役立つ情報を提供できる内容であり、健康を基盤として、一層活動的な組織を作る一助になるものと考えられる。 ・健康の3要素である「栄養」「運動」「休養」について知り、バランスの良い運動実践について理解を深めることができた。 ・ロコモティブシンドロームの予防について、実際に体を動かしながら体験することができた。何より安全を大切に、継続的に体を動かしながら体験することで安全を大切に、継続的に体を動かすことが、健康づくりに大いに役立つと実感することができ、共通の体験により参加者が一体となる事が出来た。 ・渡島地区母子寡婦福祉連合会の役員及び会員が一堂に集い、リーダー育成のための研修を深めた。 今年度は、「心身ともに健康で地域に貢献」をテーマに実施。運動健康士による講演・実技「運動不足解消でいつまでも健康に」及び保健師の講話による研修「身近な人が鬱になったら」を実施した。
檜山	平成24年9月29日(土) 30日(日) 14:30~11:00 熊石町 熊石ひらたない荘		道南ブロックと同じ	
胆振	平成24年6月10日(日) 豊浦町広域交流センター とわにー	大人106人 (子ども16人)	テーマ 「母子ともに健康で力強く自立をめざして～」 行政説明 胆振振興局子ども未来係長 講演 「家族介護の取り組み」 自己体験を通しての家族支援 「健康で豊かな人生を」 整体とパーソナルトレーニング実演	成果 胆振振興局未来係長は家族介護についてわかりやすく話して下さりとても勉強になった。 認知症の親の介護は身近な話題で、苦勞の多い体験を明るく楽しく話して下さった。 軽い体操で参加者も身体を動かすことができ、健康づくりに役立つ、椅子に座ったままで出来る簡単な体操なのですぐ実践したい。6月開催は短期間での準備となったが、豊浦町、社協の全面協力で開催でき地元の特徴が出ていて良かった。 問題点 イベント会場が広すぎて他の母子会との交流が出来なかった。 直前の開催時間の変更で遠くから参加する単位会は大変だった。 講演が時間内に終わらず、進行係の指示配慮が足りなかった。 要望等 整体とパーソナルトレーニングの実演をもう少し時間がほしかった。 開催地の労力や負担の軽減ができることを望みます。 課題 地域に貢献している会員の中から講演依頼する事も考えてはどうかと思われた。 地域の特色や今日課題を盛り込む内容については地区母連で協議し、開催地の負担軽減を図る事。

地区	開催日	参加人員	テーマ内容等	成果及び今後の課題等
網走	平成24年11月10日(土) 11月11日(日) 温根湯ホテル 四季平安の館	66人	講演 「いのちを守るために必要な災害の知識」 講師 日本赤十字社北海道大学 成人看護学 尾山とし子准教授	尾山准教授は3月釜石、4月陸前高田市で東日本大震災にあった人の心のケアを行う。 北海道は災害がない。平成15年に北見が豪雪の為、断水被害があり10渥の水を運ぶのも大変。聾啞の人は全く分からず、社協のボランティアがメールで知らせる。老人・身体障害者・母子家庭は弱者である。遺体処理の尊厳を守ってあげることができず、PTSDになる事も多くケアが大変だった。津波で汚水を飲み肺炎・喘息を起こす高齢者が多く、冷たい物、固い物等、避難所のトイレは和式、ペットボトルで流すため健康を害し膀胱炎を起こす。仮設住宅は精神的に落ち着かないし復興が見えない。災害とは重大・急激な出来事。人類環境に対する被害であり、最近では忘れないうちに災害がやってくるので自分達で生活の一部を考えることが必要。災害時に持ち出す品々等災害の準備の大切さを学んだ。 2日目 母子福祉増進会の健康体操 老化を防いで若返るカンタン体操 老化や病気の原因になる話を聞きながら12種類の運動を1時間行う。 コミュニケーションゲーム 2人1組で聞き手と話し手に分かれて行う。1分間相手の話を聞き、次の1分間は全く聞かない。など楽しいゲーム感覚の体操でした。 母子福祉増進会の冬物の商品説明と販売
道南 ブロック ・渡島 ・桧山 ・胆振 ・日高	平成24年9月29日(土) 30日(日) 熊石町 熊石ひらたない荘	128人	テーマ 「目指そう！自立、活かそう！支援策」 講演 「脳と心に潤いを！音楽いきいき体験会～リズムと遊びと唱歌・童謡の調べ～」 講師 江差中学校 三戸佳代教諭	少子高齢化や人口の減少が進み、会員は高齢化し、中々若年の母子家庭は会に入らずこれからの会を担う後継者育成に苦慮している会が多く、どうしたら時代に即した会運営や事業の持ち方をできるかを協議した。 司会 檜山地区母連副会長 渋谷マサ子 発表は浦河町-久保弘子、登別市-大須田純子、知内町-小向アヤ子 乙部町-日沼亮子 浦河町は、目指そう！自立、活かそう！支援策 主人が肺がんで死亡したとき、長男・長女は就労していたが、次女は小学5年生だったが、「お父さんは亡くなったお父さん一人がいい」と言われ再婚は無理と思った。 今年、前会長より強く推薦され会長になった。未熟だが会員とともに一生懸命活動に頑張りたい。 登別市、知内町、乙部町は「IT活用による在宅就業支援事業訓練」を受講して発表、講習を受けながら訓練手当を貰えるのも魅力でしたし、パソコン操作も好きだったのですぐ申し込みをしました。訓練時間を捻出するのが最初は大変でしたが、今は、在宅就業の委託契約をして時々ですが仕事をもらっています。(登別市、大須田純子) 夜頑張ってパソコンに向かっている私の姿に息子も応援してくれた。これからは相談するばかりでなく相談される人にならなければならないと思います。母子会は私のオアシス。(知内町、小向アヤ) 母子会には最近入会したばかり、在宅就業訓練の第5期生として7月から受講しているが、時間を作るのが難しく何度もくじけそうになったが、町内に2人いたのと、同クラスの仲間と交流しながら頑張っている。卒業して在宅就業で収入を得られるように頑張りたい。(乙部町、日沼亮子) 檜山振興局佐々木子ども未来係長と道母連眞柳理事より施策・制度の説明などがあり、会場から活発な質問も出て有意義な研修会でした。講評で佐々木係長が母子会の皆さんのパワーを感じた。身近に母子会があることを感じ一人でないと思って下さい。 眞柳理事 仲間づくりの大切さ、一人では活動に限界がある。組織で声を出していく重大さ、それぞれのブロック研修会に参加するとみんなのパワーを感じる。道母連については伝わらない底力を感じることができる。今後もこの力で組織を支えてほしい。
道東 ブロック ・網走 ・十勝 ・釧路 ・根室	平成24年10月9日(火) 10日(水)	40人	9日 釧路市生涯学習センター 10日 交流プラザさいわい 施設見学 北海道新聞総合印刷釧路工場 湿原の風アリーナ 講演 生活習慣病の予防について 講師 釧路市子ども保健部健康推進課健康相談 佐藤千代子主幹	1日目 生涯学習センターに集合し、まず道新印刷工場を見学、釧路市母子会の母子・寡婦ともに道新の新聞配達をしていたり普段見ることのできない場所で、私たちの生活に関わりのある施設見学によかったの声が多かった。 湿原の風アリーナはあらゆるスポーツ施設を完備し釧路市が誇る施設で天候にも恵まれ湿原を一望することができた。 2日目 佐藤千代子主幹より生活習慣病の予防 スライドを使いわかりやすく話していただき、2人1組になって姿勢をチェックする等充実した内容の講演だった。 意見交換会 各地区の代表者が、それぞれの地区の活動状況などを話し合い、出席単位会の会長も各自自己紹介し皆と交流できた。

地区	開催日	参加人員	テーマ内容等	成果及び今後の課題等
日高	平成24年9月29日(土) 30日(日) 熊石町 熊石ひらたない荘		道南ブロックと同じ	
十勝・帯広	平成24年11月11日(日) 音更町十勝川温泉第一 ホテル	78人	テーマ 「健やかな子どものために、豊かな環境を」 講演 「手・あし・頭を使って楽しく脳を活性化！」 講師 士幌町保健福祉健康介護グループ 井上 瑞穂 保健師	認知症予防のために普段から色々な面で、手・足・頭を使い脳を活性化するための遊びを交えた動作など指導、皆さんとてもリラックスし時間のたつのを忘れるほど楽しく参加した。 ふまねっと運動 運動の学習を通して体の動きの調節機能を高めるもので考えながらステップを踏むことで脳を活性化させる。 まとめ ・講演の中で、普段あまり使わない脳を使うことで活性化されることを学び、左手で自分の名前を書いたり、指先を動かすことが大切 ・家での役割、地域社会への参加を続ける。「ふまねっと運動」は初めての人もいたがみんなイキイキと一生懸命ステップを踏んでいた。 問題点 ・毎年参加者の顔ぶれが同じで、寡婦・母子ともに減少して子どもの参加が得られなかったのが残念です。 次年度 ・参加人数を増やすべく研修内容の充実を図り、単会毎に呼びかけを強化し協力し合う事。 への課題
計	大人 714人 (子ども18人含む)			

研修会の課題

どのブロック研修会も会員の高齢化、休会母子会の増加、若年母子家庭の未加入促進、等問題が山積している。

平成25年度は7月21日に室蘭市で北海道母子寡婦福祉研修大会が開催されるのを機会に「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業に関する特別措置法」が施行されたのを機会に各関係機関にも就労の場の確保等、働きかけていきたい。